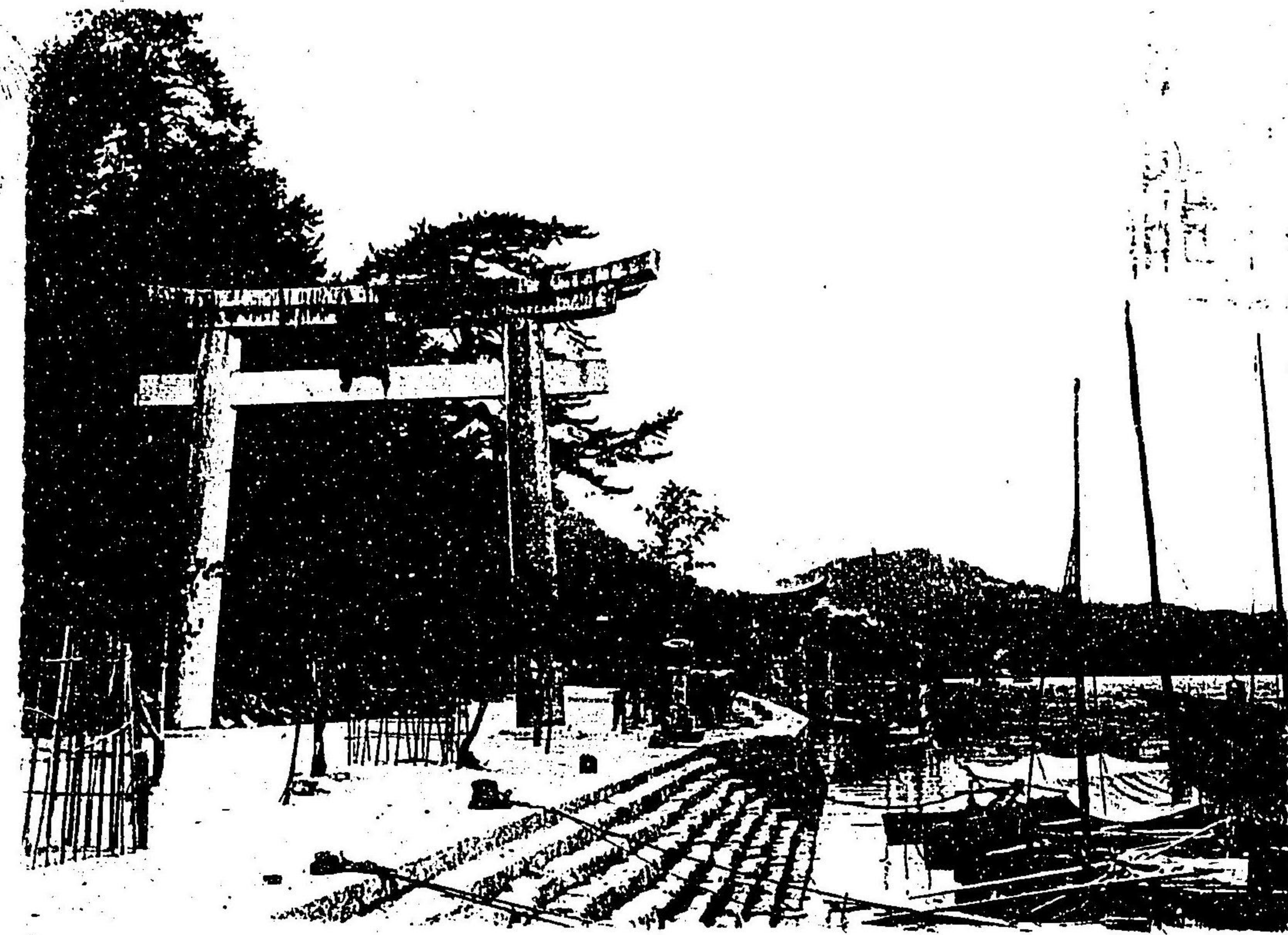


25  
960

25-960



明治  
43. 8. 8  
四三

大石鳥居

神社境内の東端あり  
明治拾年九月十二日建立  
高サ叁丈周圍一丈一尺  
大政大臣三條實美公の筆



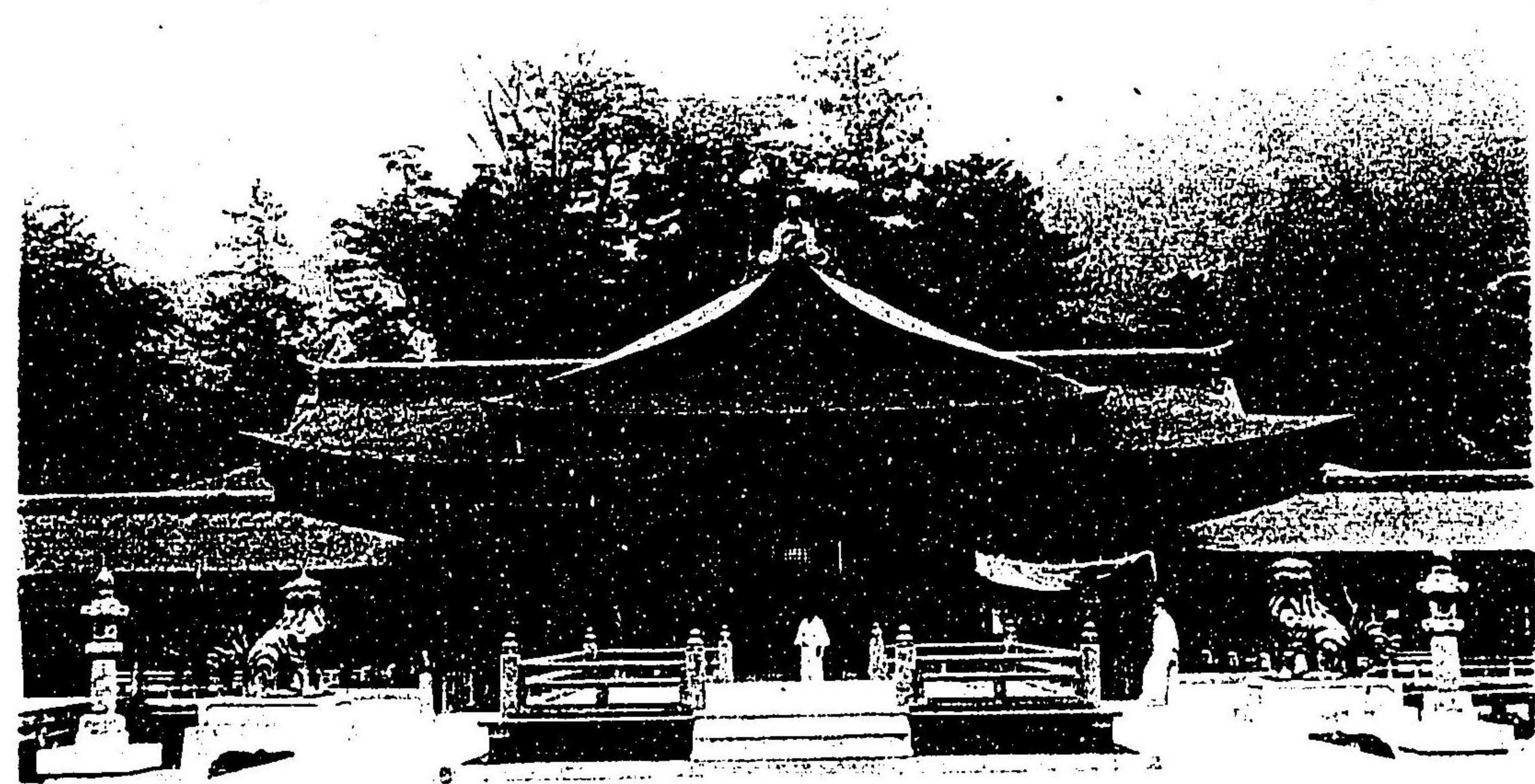
三笠濱

大石島居より本社迄の東西海岸一帯を云ふ  
推古天皇の元年御鎮座の時此濱にて  
御笠を献上したる舊蹟なりと云ふ



巖島神社入口

松老翠巒として生ひ茂れり  
側面に曾我兄弟の石燈籠  
等ありて古き蹟ひ出さしむ



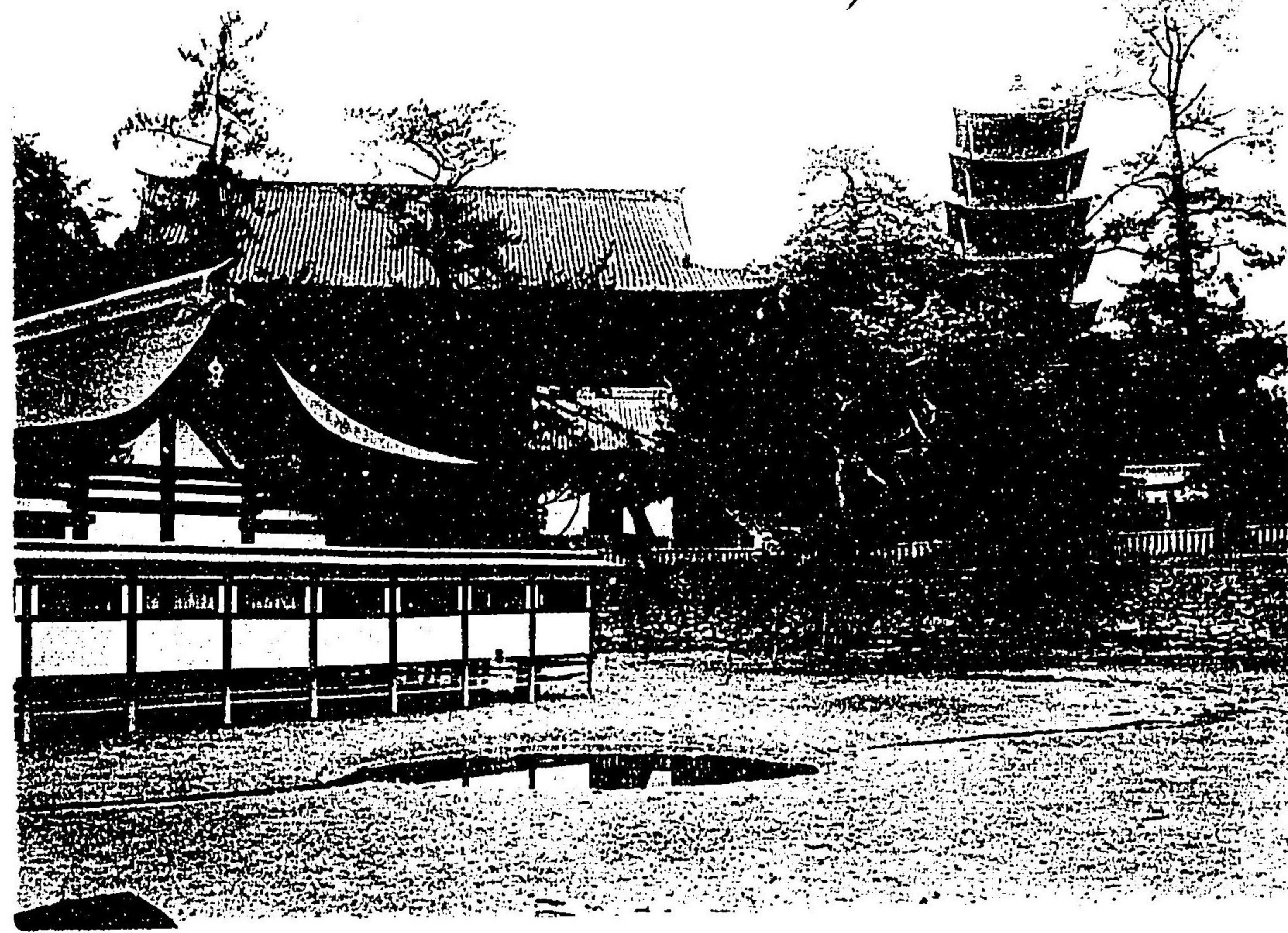
本社正面

祭神は市井の神と申す。此の神は、  
和歌山に在りて、天照皇太子御孫、  
本殿、一間三間、凡六、  
桁行十三間、凡六、  
現今の本殿は、平治元年、



御本殿内部

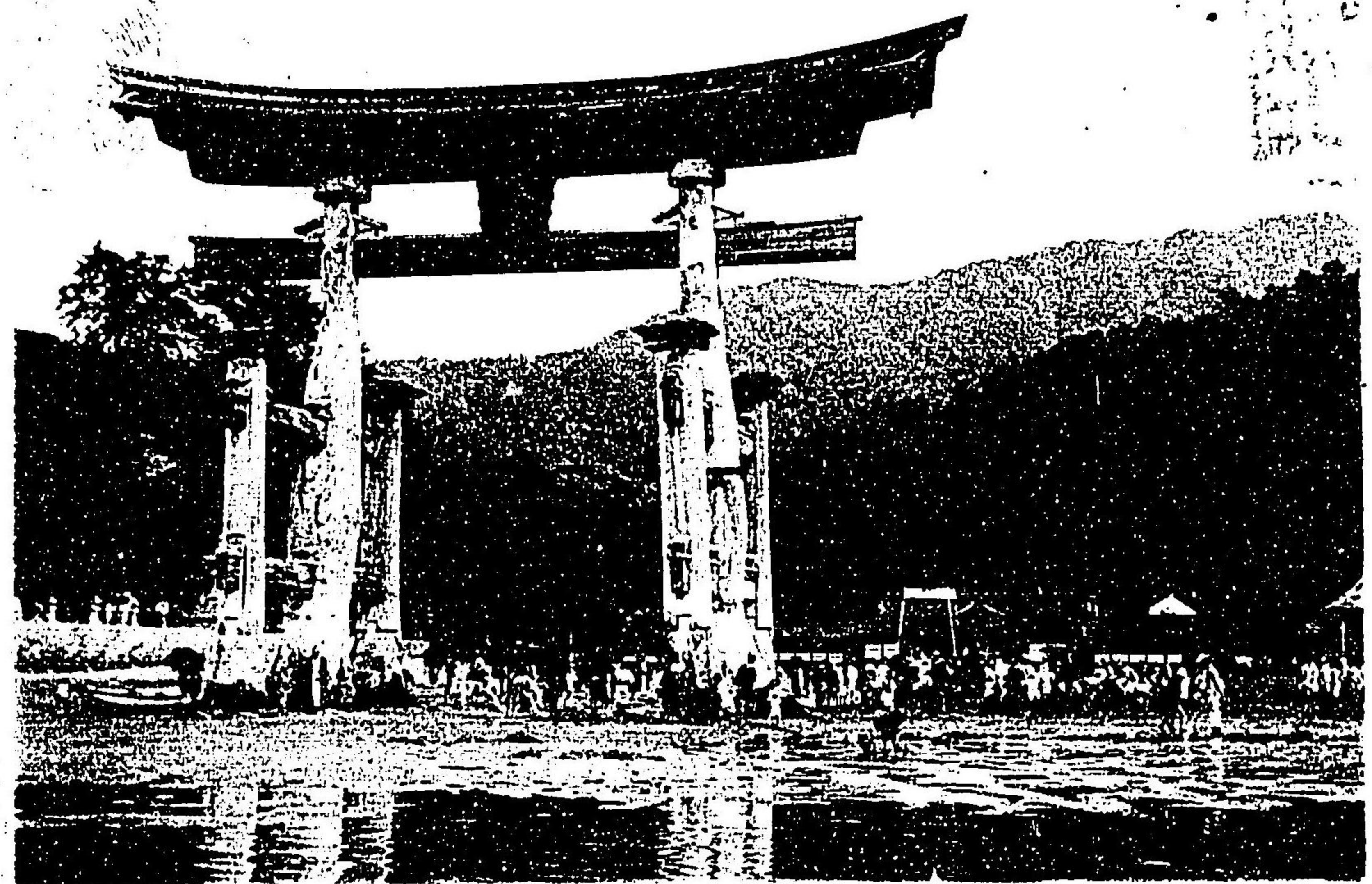
本殿梁間六間三尺六寸 桁行十三間二尺三寸  
 留殿全三間一尺五寸 全三間一尺八寸  
 拜殿全六間 全七間四尺四寸  
 被殿全六間四尺八寸 全十參間三尺八寸



鏡ヶ池

客人神社の南あり  
徳吉天皇の元年殿島神社  
御眞正よりまじし其晩出来  
たまふふ百形の池なり

25-960

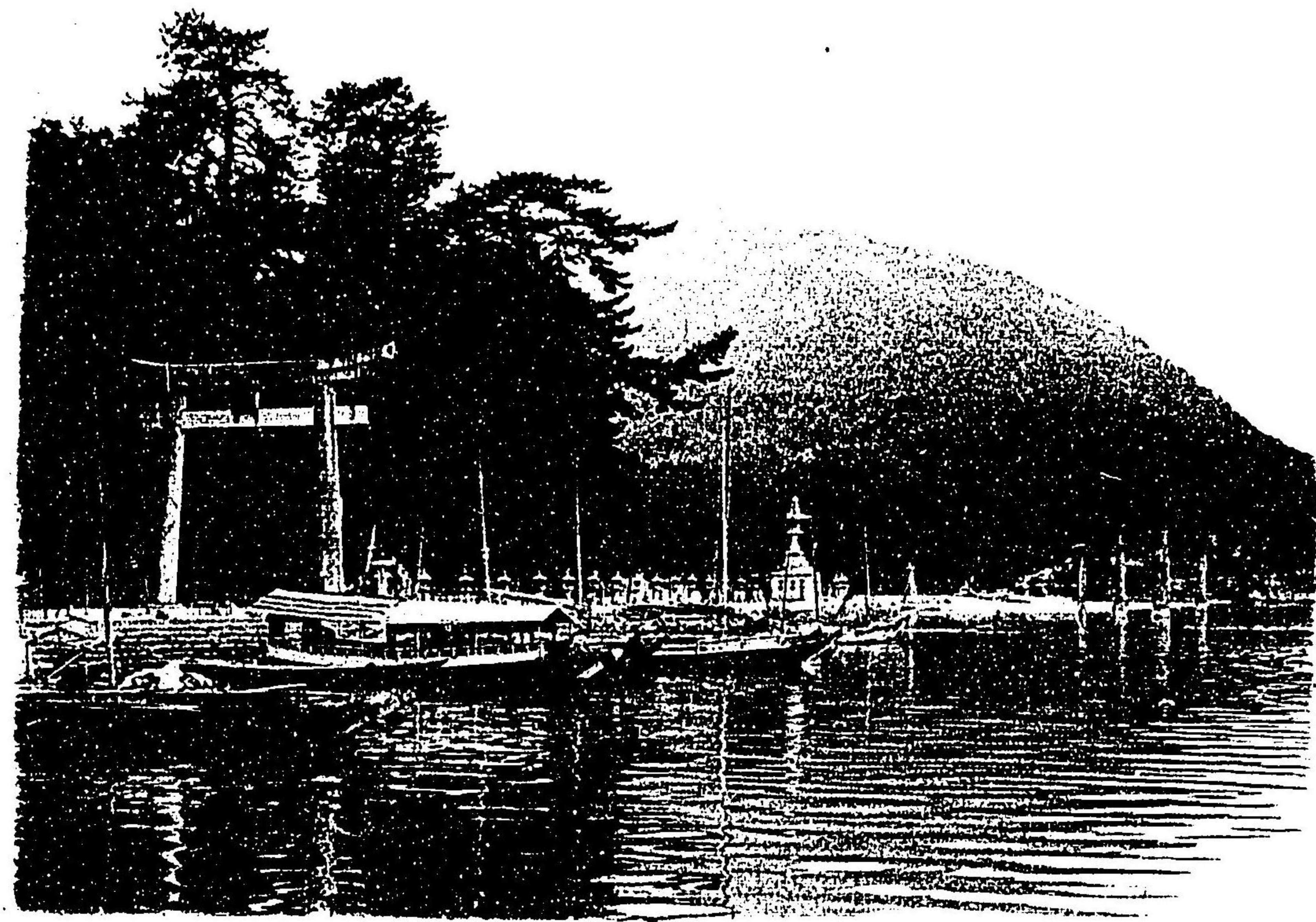


43. 8. 8

### 大鳥居

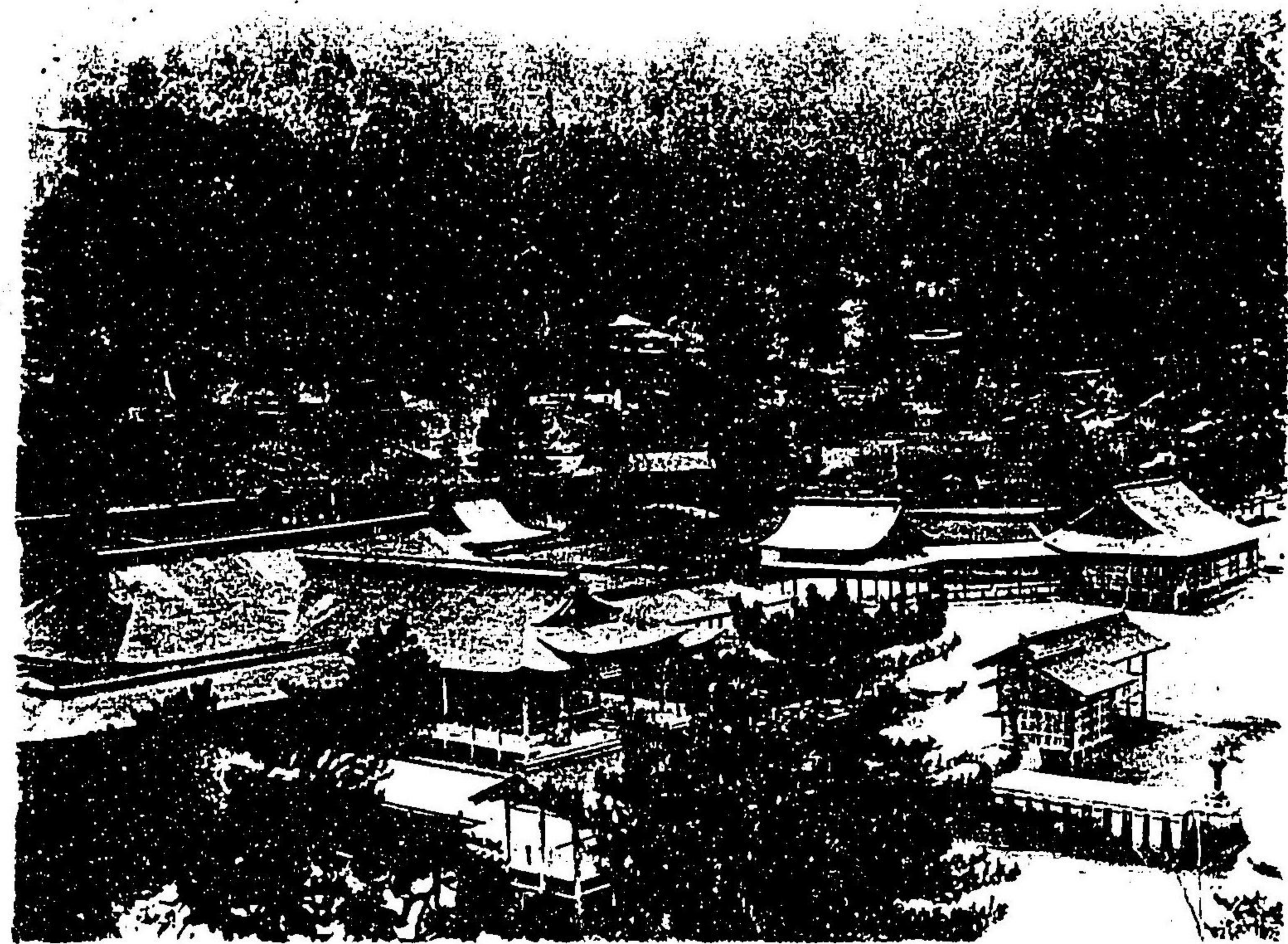
本社開港を以て千八百八十八間三並濱の海中にあり  
明治七年十二月改造着手翌年七月竣工  
總高廿八間三尺七寸博の長廿二間一尺七寸  
現今の額に 故有柄川二品熾仁親王殿下の筆





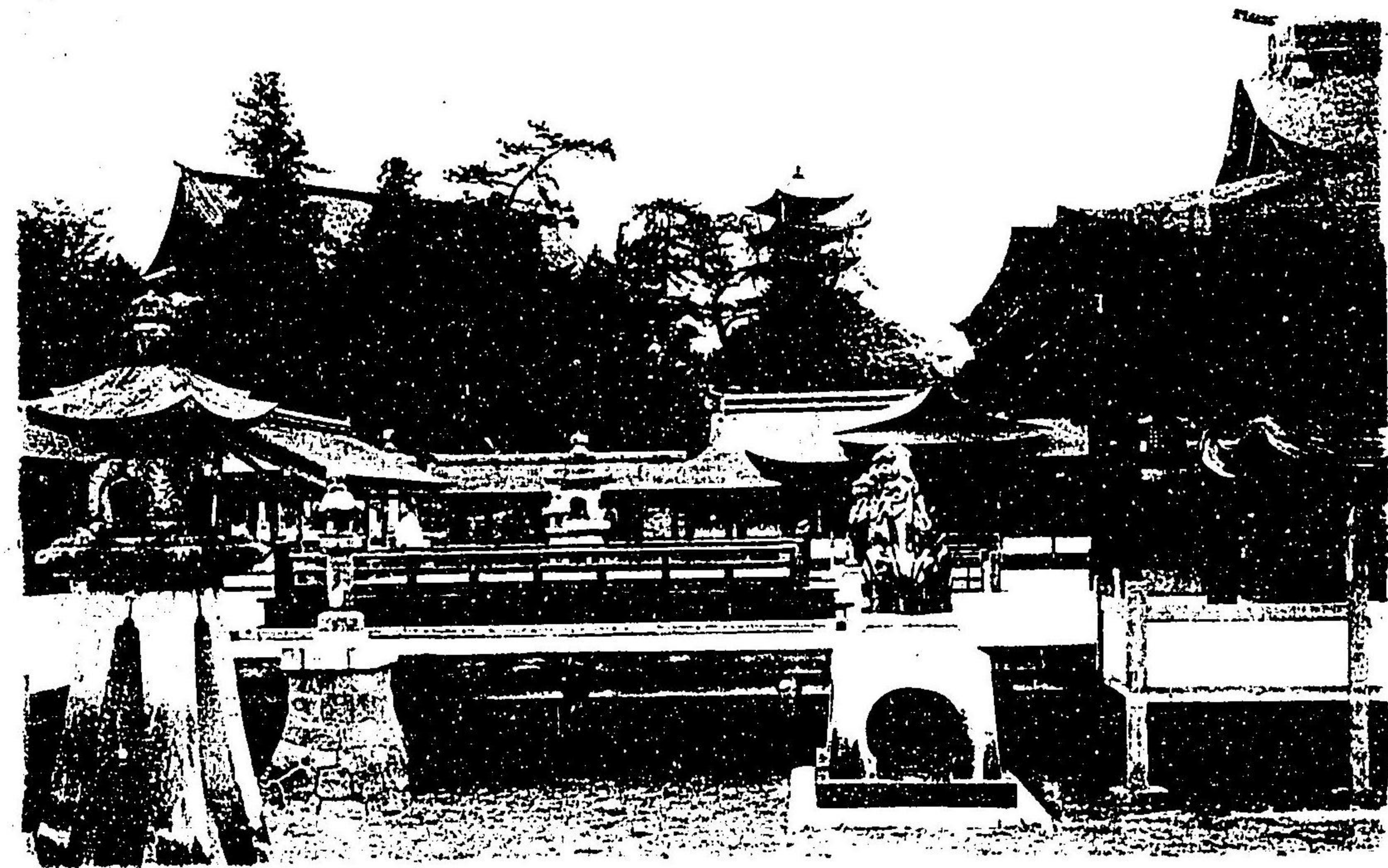
大石忌居

新田神社  
 明治廿九年九月十二日建立  
 高三丈四寸五分  
 大石村三宅實公の筆



嚴島神社全景

神社御鎮座の基礎の定まりたるは  
推古帝の御宇今を去る一千三百  
余年前現今の社殿攝社末社  
其他の建造物は平清盛改造す



本社高舞臺

葺段の前あり  
縦三間四尺 横三間



廻廊の内部

中二間長四拾八間二尺にして  
百八個の燈籠を有する  
廻廊の内部なり



五  
重  
塔

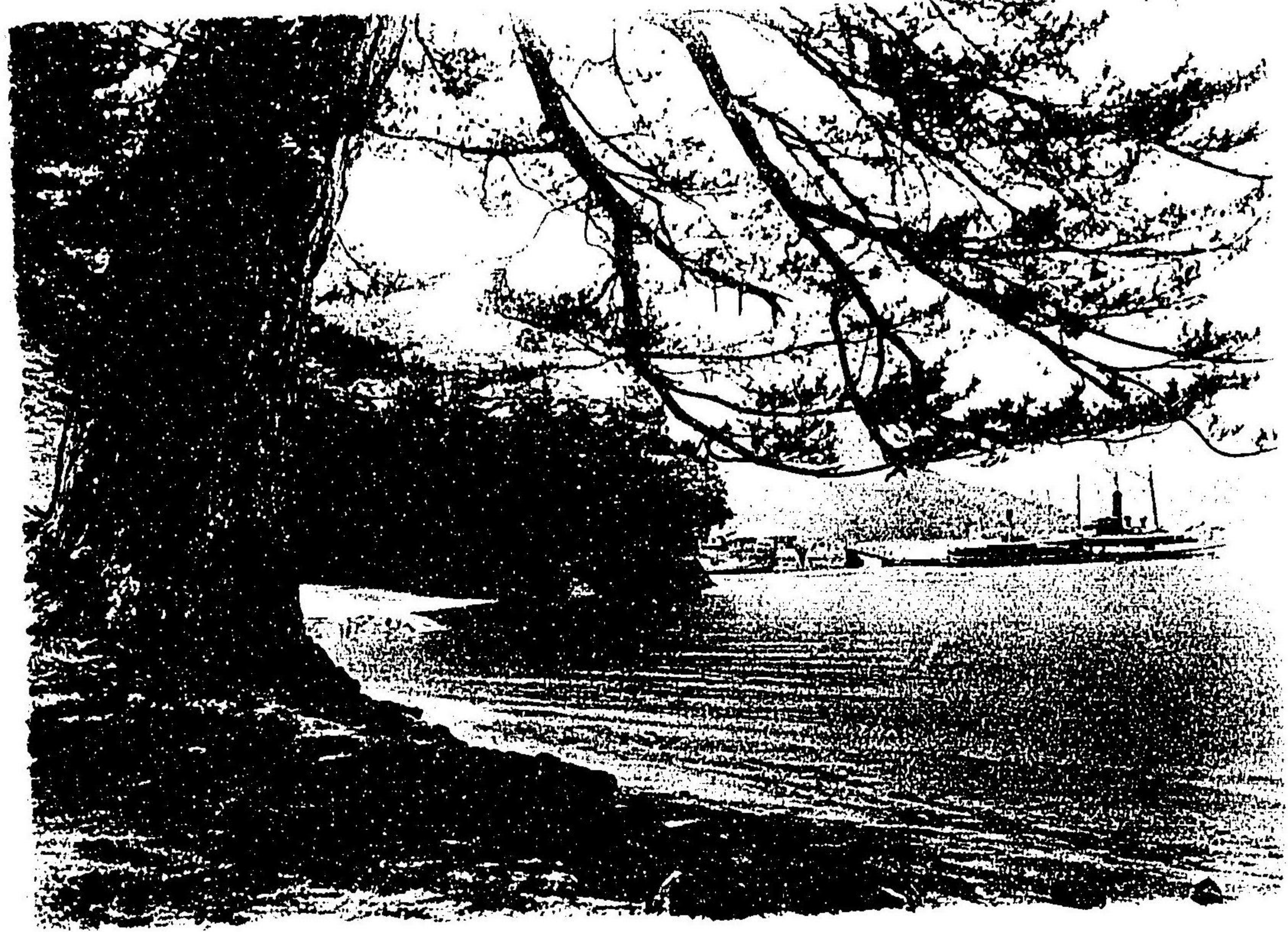
總持寺の東塔あり應永十四年七月建造  
方二間半 高さ九十一尺一寸  
飛彈内庭の作と云ふ



廻

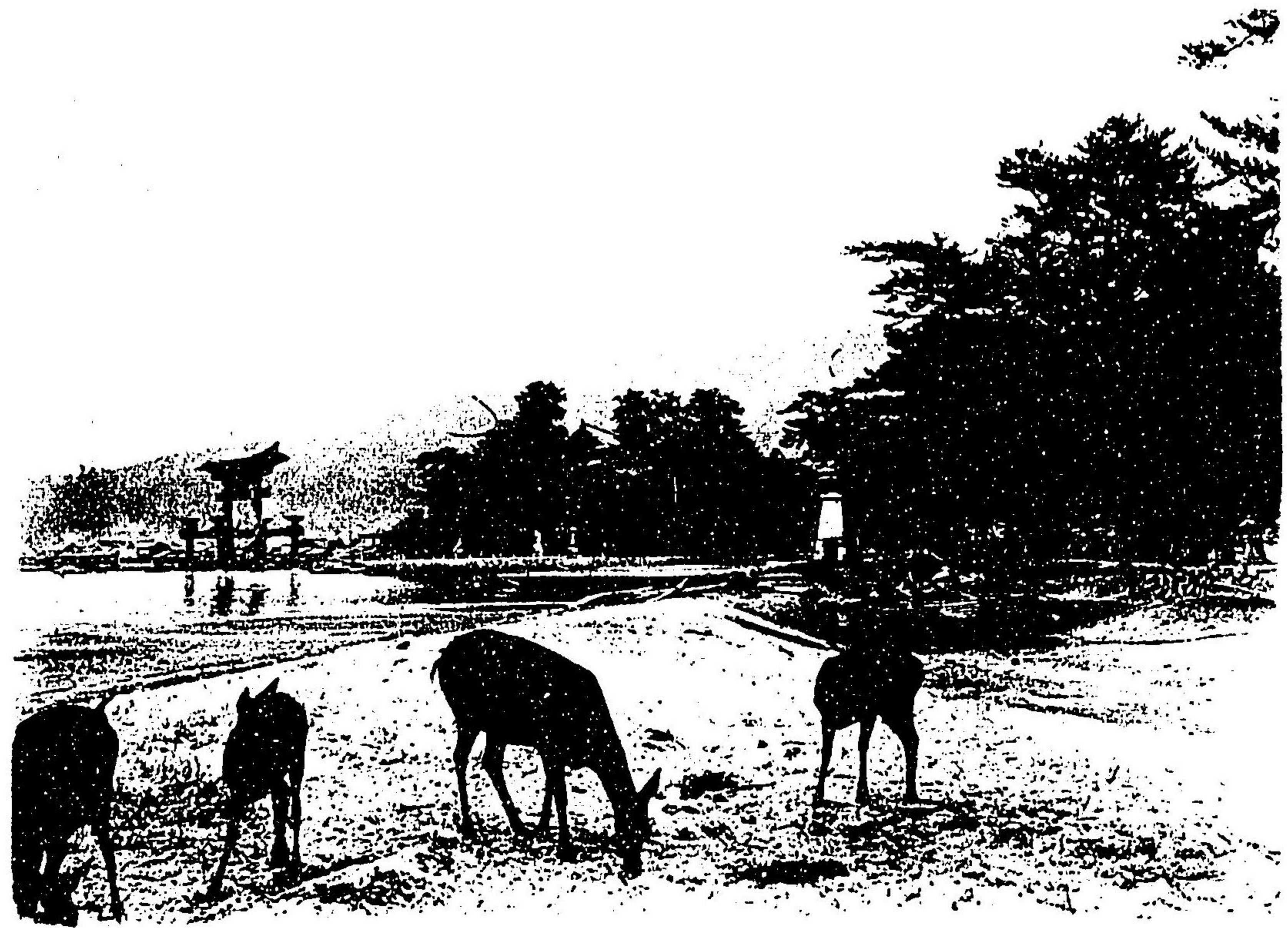
廊

巾二間長四拾八間二尺あり  
永祿二年建築として本社の左右に  
延長し百八個の鐵燈籠を鈎る  
夜間點燈の絶麗は筆に書し難し



長濱公園

磯島町の東北端にあり、前浜は海  
濱、後は高き山を有し  
眺望は、山々の間に富む



松原と神鹿

三笠山の麓にあり、鹿の  
老幼と遊戯する姿を  
見る神鹿の遊戯を  
此風景の特色なるべし



25  
960

明治四十三年七月一日印刷  
明治四十三年七月五日發行

發行兼  
印刷者

發行所

安藝國嚴島町湊岸通

瀬田春錦堂

安藝國嚴島宮其繪はかき俣直和内

瀬田春錦堂本店



025740-001-0

25-960

安芸宮島写真帖

瀬田春錦堂

1冊

M43

ADC-3274

